

【地域の産業を生かした教育と、子どもとインターネットの関わりについて】

F： 私は教育委員として地域の教育、文化、スポーツに関する仕事をしています。

芸西村では、子ども達の学力向上はもとより、芸西村の第一次産業である農業を生かした学習、田植えなど、県から認定された指導農業者や農業機関と共に体験学習をしています。

また、村の行事の一つに、村民と共に協力して芸西村の北の山に登り、山の頂上から自分達の育った村を眺め、心のつながり、豊かさを感じる活動も積極的に取り組んでいます。

これは今年の芸西村の教育委員会の中の重点施策の一つで、ふるさと教育の推進、芸西村を知り、ふるさとを愛する気持ちを育てる、という施策を今年また新たに増やしてやっております。

芸西村の産業は、農業従事者が多く、豊かな自然と調和のとれたエコ農業を推進しており、そこで育った次世代を担う子ども達に心豊かにたくましく育ててもらいたいと願っています。

また、これから近い将来課題になってくる点ですが、学業の面でも電子化が進み、近年問題となっているインターネットへの情報流出や、インターネットを介した事件などに子ども達に関わらないようにするための対処も必要になってくると感じております。

子ども達自身に分析・判断・行動力がつけば、そのような場面にも対処できるのではないかと考えており、周りの協力も得ながら、今後も取り組みたいと思っています。そのためには、子ども達にいろいろな経験や体験が必要となります。地域を生かした芸西村の事業を行うことで、これからの芸西村の発展につなげ、循環的な地域社会の実現に携わっていきたいと考えております。

知事： お話の中で、田植えなどの体験学習をされているということですが、県立農業大学の学生さんと毎年必ず意見交換会をやっていて、その学生に、「どうして農業をやりたいと思ったか？」と聞くと、「子どもの頃、近所でやっているのを見ていておもしろそうだった」とか、すごく楽しそう、面白そうとか、肯定的なイメージを体験することによって持っている子が多いなというのを感じるんです。

子どもの頃から、農業に触れる方が増えていくことで、一次産業の担い手が続いてくれるようになればと思います。何ととっても一次産業で食べていける、子育てできるようにしっかりと取り組んでいくことが重要とは思いますが、あわせてそういった良い体験をしていくことの積み重ねが大きいと思います。

まず、学力向上策についてお話をさせていただきたいと思いますが、相当徹底して取り組んできました。ご存知のとおり、平成19年の全国学力テストで高知県は、中学校の順位は全国平均からかなり差のある全国46番でした。

一部には学力テストは学力じゃないから、46番でもいいというご意見もありましたが、学力テストの学力というのを率直に受け止めて、学力向上策を真剣に取っていく必要があるということやってきました。

この4年間、例えば宿題をしっかりと出し、単元ごとにテストを行い学力の定着状況を確認していく。補習もしっかりやる。さらには放課後の学習する場、学び場を「放課後子ども教室」とか「児童クラブ」に作っていく、という一連のことをやってきたところです。

算数、数学については、学習シートを県内全域に配るようになっていて、今、宿題としてやり始めているはず。さらに、国語は昨年、英語と理科は今年から取り組みを進めてきているところです。

平成22年までの学力テストの結果は、公立中学校の伸び率は全国で一番です。順位はまだ46番ですが、やればできるというかたちで伸びてきているのも確かだと思います。

体力についても、平成20年に体力テストがあり、これは衝撃の全国最下位でした。それから取り組んできて、これも伸び率全国1位。順位は、徐々に回復してきています。両方とも、文部科学省から伸びたことについて問い合わせがあったそうです。

ただ、一定成績が伸びた後、更に伸びていくということになると、全人格的なところ、知徳体全体が問われてくると思います。

そういう意味において、学校で勉強をし、それをまた地域社会に出て、大人と一緒に例えば、土をいじったりしながらそれを生かしてみる。また勉強する。それからまた実際の体験をするといった組み合わせで、地域全体で子どもを育てていくといったことが非常に重要になってくると思います。

そうやって勉強する中で、理科のこういうことを勉強していたことも実は無駄じゃないんだとか、自然の美しさを見て、国語ではこういう表現をしていたけど、あの表現というのはこういうことを言うんだなと思ってみたりとか、その学業で勉強したことが、自分の身に付いていくような体験というのをたくさんできることが重要だと思うんです。

教育改革の観点からみると、これからのステージにおいて地域全体で子育てをしていくということが重要になってくると思います。

そういう意味で、学校としてこういう取り組みをしていますということを県内の皆さんにもう一段知っていただき、具体的にこういうことをやっていますので、是非、ご家庭と地域でバックアップしていただきたいといった冊子を作り、全戸に配布しようと思っています。そうすることで、ご家庭と一緒に、地域と一緒に子育てができる体制を作れるかどうか、教育改革については、そこが大いに課題だと思っています。

初期段階での加速と、これを本格的なものにしていくために地域社会全体で支えていく仕組みづくり。現在、この第二段階に入っていると思っています。

インターネットの関係では、確かに非常に難しい問題がありますが、文部科学省が過去にもいろいろ調査している中で、例えば、携帯電話について家庭でしっかりルールを定め

ていることが、非常に防御につながっているとか、フィルタリングをしていた方がいいとか、いくつか対処についての一定の経験則が出てきているそうです。

それを、教育委員会がまとめて、「子どもの携帯大丈夫？」という保護者向けのリーフレットを作ったりしているところです。PTAの皆さんも使っていただきたいと思います。

F： 授業の中でそういうこともやっておりますが、子どものほうが、やはり親よりもっとインターネットの知識を覚えるのが早いです。しかし、インターネットに関しては、失敗したらそこで人生棒に振るということも出てくる危険性があります。そういう話を親も交えてという話を出していますが、今のところ、踏み込んだ詳しいところまではできてないのが現状です。

知事： すぐ解決するというのは難しいですが、先生なども、そういう意味では最新のことを分かってないといけませんね。